

(9) アーユルヴェーダ薬草混合物 [MAK - 4、MAK - 5、MA - 631、およびマハリシ・コーヒー・サブスティチュート] による、試験管内におけるヒトの低比重リポ蛋白の酸化物化の抑制

文献名

Indian Journal of Clinical Practice, Vol.1, No.8, pp.23-27, January 1991.

著者

Yukie Niwa (丹羽耕三 医学博士)

実施場所

丹羽免疫研究所 高知県土佐清水市

要約

アマリット4およびアマリット5がヒトの好中球の走化性、食作用、活性酸素種(ROS)の産生、およびマイトジェンに対するリンパ球反応に及ぼす影響について調査した。さらにキサンチン-キサンチンオキシダーゼ系において産生されたROSに及ぼす影響も試験した。走化性はアマリット4を添加した場合に有意に抑制され、食作用はアマリット4とアマリット5を添加した場合にわずかに減少した。アマリット4およびアマリット5は、好中球系およびキサンチン-キサンチンオキシダーゼ系で産生される超過酸化物、過酸化水素、およびヒドロキシラジカルを著しく減少させた。また、これら二種の薬草混合物は、マイトジェンに含まれるフィトヘマグルチニンとコンカナバリンA、およびアメリカヤマゴボウマイトジェンにより刺激されるリンパ球の芽球化を有意に減少させた。本研究は、これら二種の天然物が経験的にさまざまな疾患に有効であるのは、炎症性媒介物、とりわけ強力なROSに対する抑制的効果によるものであることを示唆している。